



「JENESYS2.0」

中国農業部種植業部門青年交流団

訪問日程 平成 29 年 2 月 15 日（水）～2 月 22 日（水）

1 プログラム概要

農業部種植業管理部門の青年を中心とした、中国農業部種植業部門青年交流団（団長：胡永万（コ・エイマン）中国農業部 人事労働司巡視員）計 31 名が、2 月 15 日から 2 月 22 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、代表団は東京・神奈川・千葉・大分・熊本・福岡を訪問し、農林水産省、植物防疫所、地方の病害虫防除所や民間種苗会社への訪問や関係者との交流を通じて、日中植物防疫分野の交流や日本の植物防疫体制等に関する理解を深めました。また、歴史的建造物の見学、日本文化体験などを通して「クールジャパン」に直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

2 月 15 日（水）

- ・羽田空港より入国
- ・お台場参観
- ・パナソニックセンター東京参観
- ・オリエンテーション

2 月 16 日（木）

- ・皇居・二重橋参観
- ・農林水産省訪問
- ・農林水産省横浜植物防疫所訪問
- ・歓迎会

2 月 17 日（金）

- ・千葉県農林総合研究センター訪問
- ・丸紅株式会社訪問
- ・JA 市原市姉崎蔬菜組合（大根洗浄選別施設）視察

2 月 18 日（土）

- ・江戸東京博物館見学
- ・大分県へ移動

2 月 19 日（日）

- ・大分農業文化公園視察
- ・世界農業遺産「国東半島・宇佐の農林水産循環」旭市ため池視察
- ・日本文化体験（和風温泉旅館宿泊）

2 月 20 日（月）

- ・熊本県へ移動
- ・農研機構九州沖縄農業研究センター訪問
- ・水前寺公園見学

2 月 21 日（火）

- ・福岡県へ移動
- ・柳川市内参観
- ・太宰府天満宮参観
- ・商業施設視察
- ・歓送報告会

2月22日（水）

- ・博多の食と文化の博物館（ハクハク）視察
- ・福岡空港より帰国

3 写真



2月15日
オリエンテーション
（東京都）



2月16日
農林水産省訪問
（東京都）



2月16日
農林水産省横浜植物防疫所訪問
（神奈川県）



2月16日
歓迎会
（東京都）



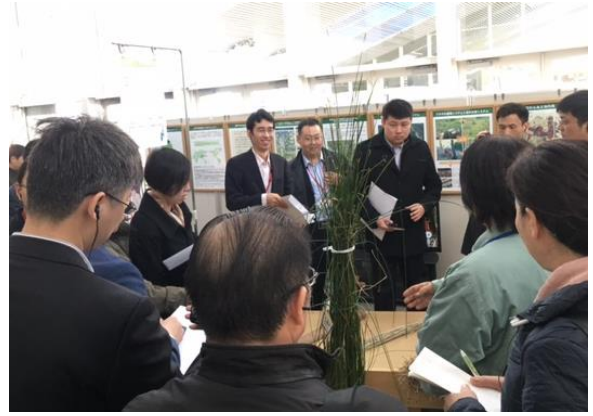
2月17日
千葉県農林総合研究センター訪問
（千葉県）



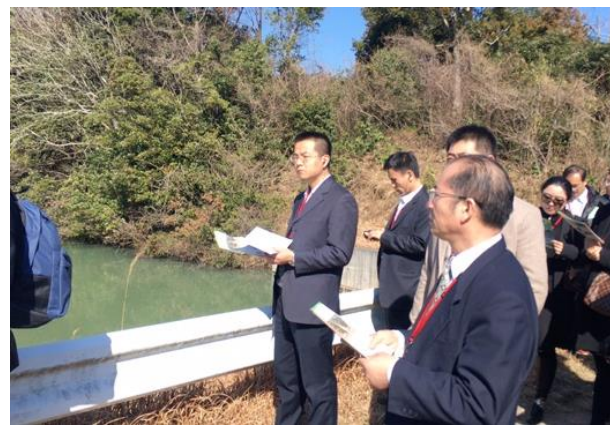
2月17日
丸紅株式会社訪問
（東京都）



2月17日
JA市原市姉崎蔬菜組合
（大根洗浄選別施設）訪問（千葉県）



2月19日
大分農業文化公園視察（大分県）



2月19日
「国東半島・宇佐の農林水産循環」
旭日市ため池視察（大分県）



2月20日
農研機構九州沖縄農業研究センター訪問
（熊本県）



2月21日
歓送報告会（福岡県）

4 参加者の感想（抜粋）

○1. 日本の自然環境はよく守られており、都市も農村もたいへん整然として清潔である。ごみの分別に対する考え方も進んでおり、徹底して実施されている。中国の人民に伝え、手本とすべきである。

2. 日本では農業がとても重視されている。国土が狭く、天然資源も豊富ではないが、日本は世界的に有名な農業先進国である。これは、日本の政府と国民が農業を重視していることと密接な関係があり、特に農業科学技術への強力な支援は注目に値する。

3. 日本は高齢化が深刻である。人口の少ない小都市や農村地区では、農業に従事する労働力が非常に不足しているため、日本の経済発展を大きく制約し、様々な社会問題をもたらしている。現在、中国でも高齢化が進んでいるため、日本の現状を重く見て、早急に対処すべきである。

○まず、日本では農業の多機能性が重視され、保護されていることが深く印象に残った。農業は、人々に必要な食物を提供する源であるだけでなく、文化の伝承、環境保護、青少年の教育など様々な機能を担っている。次に、日本の農業の発展は、工業生産の理念と商業経営の考え方を非常にうまく融合させている。私の知る限りでは、日本の農業は、生産の機械化、自動化の技術が大変成熟しており、現代の情報技術の農業生産への応用は世界トップレベルである。また、今回見聞きし、感じたことから、日本の農業は商業経営の考え方を取り入れてマーケティングを行うことに長けていることが分かった。例えば、農業文化遺産の宣伝、農産物のブランドづくり、国内外市場の開拓などを非常にうまく行っている。

○1. ごみ処理——ごみの分別がしっかり行われ、街は清潔で、ごみ箱はないがごみを持ち帰る習慣がある。

2. トイレ——清潔で臭わない。多機能トイレはとても使いやすく、中国のホテルや百貨店も参考にすべきである。

3. 植物検疫——日本では、輸出入検疫および国内検疫ともに農林水産省が管理している。空港の検疫は素晴らしく、とても進んでいる。横浜植物防疫所は設備が先進的で、職員はまじめで責任感に富み、全国の検疫官の研修を行っている。検疫に従事する職員や科学技術員は、仕事に誇りを持ち、責任感が強く、植物の疫病が日本へ侵入するのを防ぐために卓越した仕事をしている。

4. 飲食、健康——海産物が新鮮で、丹念に準備された食材は、量は少ないが種類が豊富である。

○最も印象深かったのは「秩序」、社会と人々の秩序である。外在的な面では、法規、制度、システムおよび情報が整備されているため、よるべき規則があり、秩序が整然としている。内在的な面では、規律に従い、物事を厳密かつ緻密、客観的かつ具体的に処理するため、社会運営、人々の活動、企業経営の方向性が合理的で、資源エネルギーが効率的に利用されている。また、人々はそれぞれの適所において、同じ方向性に向かって努力し、統一した「国民性」を形成している。このような「秩序」は、直接目に見える街路や建物の清潔さ、人々がルールを守り礼儀正しいこと、順序立てて物事を進めるさまなど、様々な面に見られる。

次に印象深かったのは、文化が醸成と昇華を続けて影響力を持ったことである。禅宗は日本で広まり絶えず発展し、日本社会の様々な層に深く影響を及ぼしており、禅宗発祥の地である中国よりも一般庶民に大きな影響を与え、国民を強化し、思想を向上させている。

○今回の活動のテーマは、文化交流と植物検疫交流であった。活動を通して、日本の美しい風景や歴史に触れ、日本に対する理解を深めた。横浜、千葉、大分などの植物検疫機関を訪問して得た、日本の検査・検疫に関する主な方法、政策、および関連技術などの知識は、帰国後、関連する業務に役立てることができる。

日本の禅宗文化の源は中国であるが、長い時間をかけて伝えられる中で発展を続け、日本人の思想・概念や生活習慣に深く影響を与えていることに感慨を覚えた。禅宗文化発祥の地である中国では、現在、日本ほど禅宗文化が広まっていない。特に、日本における禅宗文化の継承は一般庶民の力によるところが大きく、この面で両国民はさらに交流する価値がある。

○中国も日本も高齢化を避けて通れない。日本の状況はより深刻で、農業や農村の発展に大きな負担となっている。しかし、日本の農業は病虫害の防除、科学研究、社会化サービスシステム（農協など）、農業文化遺産の保護などに熱心に取り組んでおり、手本として学ぶべきである。一部の科学研究（病虫害の防除など）、農産物貿易（中国の非遺伝子組み換え大豆など）、農業文化遺産の保護などの面で、さらに協力を深めることができる。